

## 虫垂粘液球症を伴う虫垂粘液嚢胞腺癌の1例

国立福山病院外科

諸富 嘉樹 桑田 康典 藤井 一郎 柏原 瑩爾  
上田 祐造 寺沢 明夫 檜垣 健二

### A CASE REPORT OF THE MUCINOUS CYSTADENOCARCINOMA OF THE APPENDIX VERMIFORMIS WITH MYXOGLOBULOSIS

Yoshiki MOROTOMI, Yasunori KUWATA, Ichirou FUJII,  
Eiji KASHIHARA, Yuzou UEDA, Akio TERAZAWA  
and Kenji HIGAKI

Sugery, Fukuyama National Hospital

索引用語：虫垂粘液球症，粘液瘤，虫垂粘液嚢胞腺癌

#### 緒 言

虫垂粘液球症 (myxoglobulosis) は粘液瘤 (mucocele) の特殊型で、虫垂内腔に半透明の真珠様のカエルや魚の卵に似た粘液球をつくっており、frog-egg または fish-egg mucocele とよばれている。

粘液球症は1897年 Lathan が最初に記載し、1914年 Hansemann により命名されたが<sup>1)</sup>、本邦では1910年佐藤が報告して以来約50例と数少ない<sup>2)</sup>。塩川<sup>3)</sup>、池内ら<sup>2)</sup>によると1万~30万の虫垂切除に1例みられるといわれるまれな疾患である。

われわれは虫垂粘液球症を伴った虫垂粘液嚢胞腺癌の症例を経験したので報告する。

#### 症 例

患者：36歳，会社員。

主訴：注腸検査による回盲部腫瘍陰影。

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：31歳時十二指腸潰瘍。

現病歴：1987年2月9日何ら誘因なく左側腹部に鈍痛を来したが、3日間で消失した。近医を受診し注腸検査にて回盲部腫瘍を疑われ当科に紹介された。

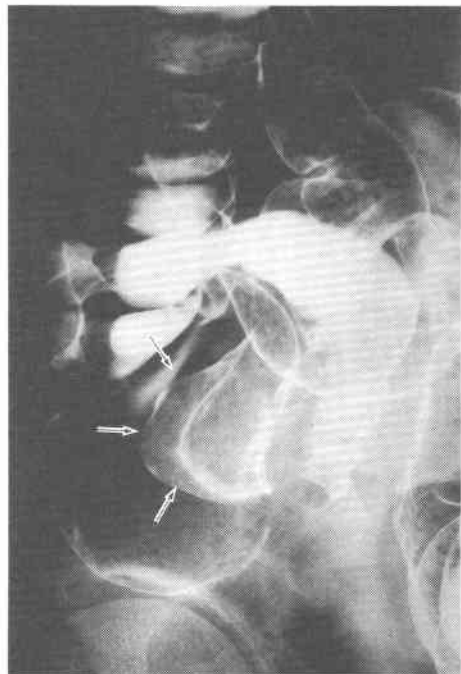
入院時現症：vital sign 正常で、腹部も軟らかく圧痛、筋性防御などは認められず、腫瘍も触知されなかった。

臨床検査成績：検血、生化学、検尿などに異常なく、血中 CEA も1.2ng/ml と正常を示した。

注腸検査所見：虫垂は造影されず、盲腸内側で Bauhin 弁の尾側に立ち上がりのなだらかな半球状隆起性病変があり、その表面は平滑で潰瘍性変化は認められなかった (図1)。

大腸内視鏡所見：盲腸に半球状隆起性病変を認めた。表面粘膜は平滑でびらん、潰瘍はなく色調は周辺

図1 注腸造影所見：Bauhin 弁の尾側に半球状隆起性病変を認める。虫垂は造影されず。



<1989年9月19日受理> 別刷請求先：諸富 嘉樹  
〒761-07 香川県木田郡三木町池戸1750-1 香川医  
科大学小児外科

図2 大腸内視鏡所見：盲腸に半球状隆起性病変を認める。表面は平滑で色調の変化を認めない。

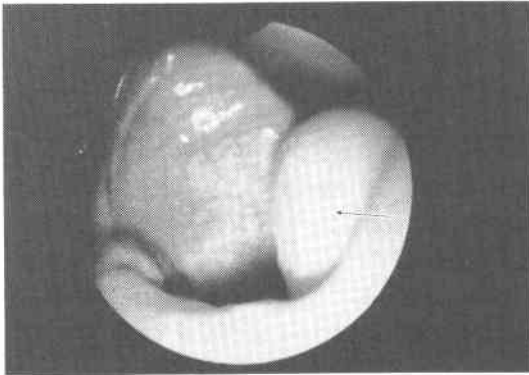


図3 CT所見：回盲部に嚢胞状の楕円形腫瘍陰影を認める。

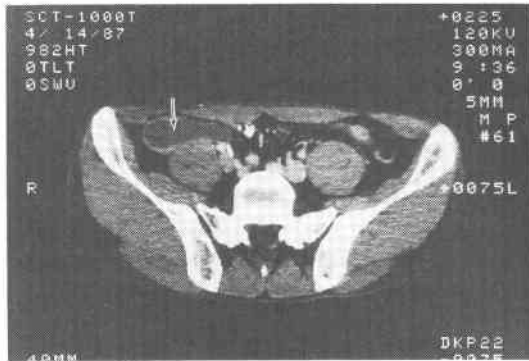


図4 切除標本肉眼所見：虫垂は8.5×2.0cmと腫大、緊満し、先端に切開を加えると粘液球がみられた。

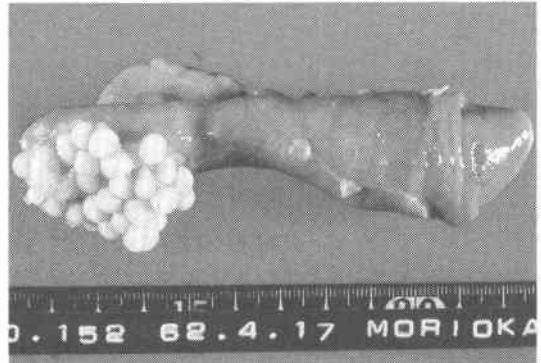
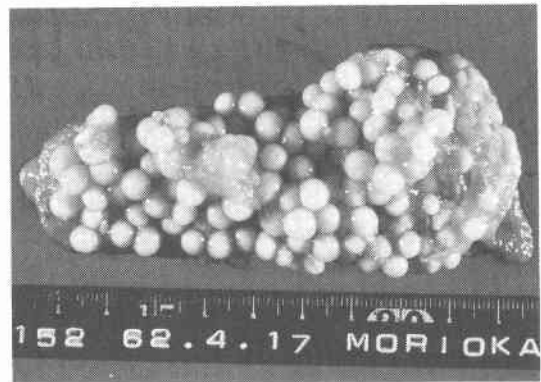


図5 切除標本肉眼所見：虫垂内腔には直径3~5mm大、白色球形の軟らかい粘液球が220個認められた。盲腸との交通はみられなかった。



粘膜と同様であった(図2)。

Computed tomography 所見：右腸腰筋側で回盲部と考えられる部位に嚢胞状の楕円形腫瘍影が認められた(図3)。

以上より、盲腸粘膜下腫瘍あるいは虫垂粘液瘤の疑いで手術を施行した。

手術所見：1987年4月27日手術を施行した。右傍腹直筋切開にて開腹するに、腹腔内には、腹水やゼリー様物質は認められなかった。虫垂は拇指頭の太さでソーセージ様に緊満していたが、周囲への癒着はなく炎症所見も認められなかった。粘液瘤と考えて虫垂根部より盲腸壁を一部含めた虫垂切除術を施行した。

切除標本肉眼所見：虫垂は8.5×2.0cmと腫大緊満し、盲腸との交通は認められなかった。切開すると直径3~5mm大、白色球形の軟らかいカエルあるいは魚

の卵状の粘液球が220個とゼリー様物質が少量認められた。膿や糞石は認められなかった。剖面で虫垂口側は完全に閉塞していたが、腫瘍形成はなく壁は全体に肥厚していた。粘膜面は平滑で粘液をいれた直径5mm大の白色調の壁内嚢状変化を多数認めた(図4, 5)。

病理組織学的所見：虫垂粘膜の一部に粘液産生型の上皮がみられ、壁内および漿膜まで粘液貯留がみられる。腫瘍細胞は異型性が少なく粘液産生の強い管状、乳頭状増殖部(図6)と異型性の強い重層性増殖部(図7)がみられた。悪性の所見として粘液産生の強い腫瘍細胞の漿膜下層への浸潤がみられる(図8)。以上よりよく分化した虫垂の adenocarcinoma と診断された。

術後経過：初回手術後経過良好で14日目に退院した。退院後に前述の病理組織検査結果を得たので low

図6 病理組織学的所見：粘液産生性の強い腫瘍細胞の管状、乳頭状増殖がみられる。異型性は少ない。(H.E. ×100)

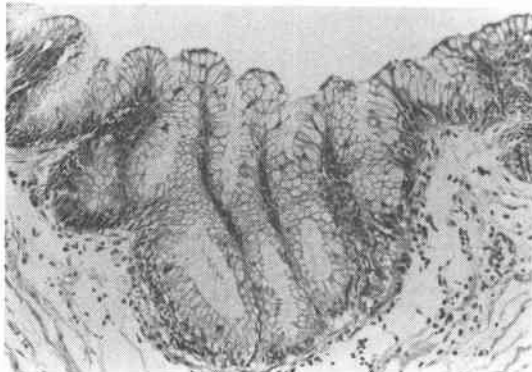


図7 異型性の強い細長い腫瘍細胞の重層性の増殖がみられ、粘液産生細胞を少数含む。(H.E. ×40)

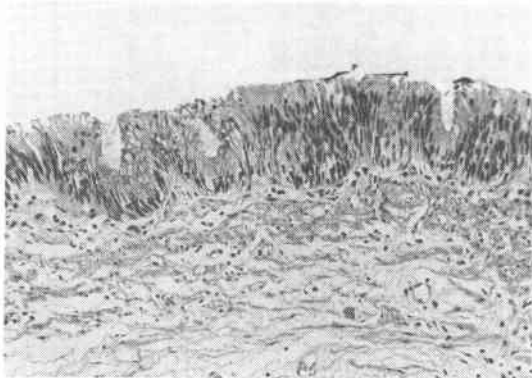
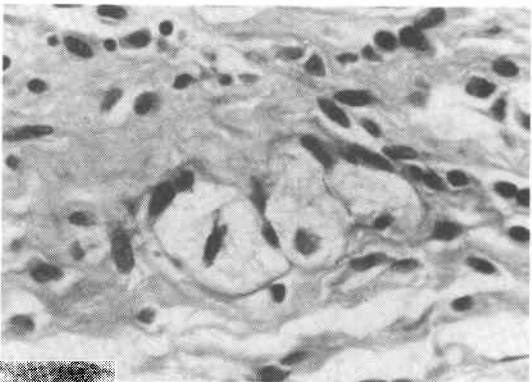


図8 subserosa には粘液産生細胞の浸潤が見られた。(H.E. ×400)



grade malignancy と判断し、初回手術後40日目に回盲部拡大再切除、リンパ節郭清を施行した。癌遺残、リンパ節転移は組織学的にも認められず、再手術後再発の兆しなく社会復帰している。

#### 考 察

虫垂粘液球症は本邦では佐藤(1910)<sup>4)</sup>の報告以来文献的に約50例みられている<sup>2)</sup>。虫垂粘液球症の発生機序についてはなお十分に明らかにされていないが、粘液瘤の変形であることについては意見が一致している。

粘液瘤の発生条件<sup>2)</sup><sup>4)5)</sup>としては、(1)虫垂内腔の完全な閉塞、(2)粘膜が分泌機能を有すること、(3)内腔に糞便がなく無菌であることがあげられる。また粘液小球体の発生機序としてはいくつかの説があるが、粘液中の膠様物質が凝集し粘液塊をつくり、これに剝離上皮、リンパ球が加わり固くなり虫垂の自動運動により球体となるという説が有力と思われる。

粘液瘤を形成する虫垂病変として臨床病理学的に次の3つに分類されている<sup>6)7)</sup>。

(1) mucosal hyperplasia：異型上皮はない。

(2) mucinous cystadenoma：異型上皮を認め、内腔の著名な拡張がある。

(3) mucinous cystadenocarcinoma：腫瘍性の粘液産生細胞の間質浸潤や腹膜への播種が認められる。

本症例は(3)に該当するが、(2)と(3)は臨床上、X線検査上、肉眼所見上では通常区別ができない。腫瘍性細胞の間質への浸潤、虫垂外への播種したムチン内に上皮が存在することにより区別され、malignant mucoceleとも称される<sup>8)</sup>。虫垂粘液嚢胞腺癌(mucinous cystadenocarcinoma)の経過に関しては、粘液産生の亢進により虫垂破壊を来し腹腔内に破れ腹膜偽粘液腫を形成することが特徴とされているが、遠隔転移を来す症例<sup>9)10)</sup>もまれにあると報告されている<sup>11)</sup>。よって治療は虫垂部分切除でもよいとされているが<sup>11)</sup>、遠隔転移の報告もあることから、low grade malignancy に準じて回盲部切除の必要があると考える。

#### 結 語

虫垂粘液球症を呈する虫垂粘液嚢胞腺癌の報告はわれわれの検索した限りでは見当たらず、本症例はまれな症例であり、若干の文献的考察を加えて報告した。

稿を終えるにあたり、御指導を賜りました岡山大学第2生理学教室、元井 信先生に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 溝口修身, 三村一夫, 寺島 肇ほか: 虫垂 Myxoglobulosis の 1 例. 外科症例 1: 21—24, 1977
- 2) 能見伸八郎, 林 雅造: 虫垂 Myxoglobulosis の 1 例. 外科診療 21: 1141—1143, 1979
- 3) 塩川菊雄: 虫垂 Myxoglobulosis の 1 例. 手術 12: 873—875, 1958
- 4) 大野義一郎, 青柳昌彦, 中村正樹ほか: 粘液球形成症を伴った虫垂粘液嚢腺腫の 1 例. 胃と腸 20: 213—217, 1985
- 5) 高橋日出雄, 町田 崇, 町田果二ほか: 虫垂粘液嚢腫に重積症を合併した例. 臨外 36: 861—864, 1981
- 6) 藤田直孝, 望月福治, 松本恭一ほか: 限局性腹膜偽粘液腫を形成した虫垂粘液性嚢胞腺癌の 1 例. 胃と腸 18: 875—882, 1983
- 7) Higa E, Rosa J, Pizziabono CA et al: Mucosal hyperplasia, mucinous cystadenoma and mucinous cystadenocarcinoma of the appendix. Cancer 32: 1525—1528, 1973
- 8) 岩 英剛, 谷口健三, 福田一郎ほか: 虫垂癌(粘液嚢腫型) 外科治療 45: 99—101, 1981
- 9) 丸山博司, 高橋精一, 横瀬喜彦ほか: 遠隔転移を伴った虫垂原発の悪性粘液瘤. 奈良医誌 32: 31—36, 1981
- 10) Mets T, Hove WV, Louis H et al: Report of a case with extraperitoneal metastasis and invasion of the spleen. Chest 72: 792, 1977
- 11) 金児千秋, 日高直昭, 鈴木 聡ほか: 巨大な粘液嚢腫を形成した原発性虫垂癌の 1 例. 外科 43: 649—650, 1981